学校番号	3020

令和８年度　商業科

教科	商業科	科目	ソフトウェア活用	単位数	４単位	年次	２年次
使用教科書	「ソフトウェア活用」（実教出版）						
副教材等	令和７年度版全商情報処理検定模擬試験問題集１級ビジネス情報部門（実教出版） 令和６年度版全商情報処理検定模擬試験問題集２級ビジネス情報部門（実教出版） ※２級に関しては、前年度「情報処理」から継続使用						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

学習が進むにしたがって専門的で高度になり難しくなりますので、教科書や問題集を利用し、受けていない授業内容があれば補っておきましょう。また、日頃から情報機器を使用するとき、どのようなｼｽﾃﾑが使われているか意識し、ビジネスや情報などに関する新聞・テレビニュースなどに気を配り、家の人や友人と学習した用語などを使って話をしてみると、理解が深くなります

2　学習の到達目標

【知識及び技術】
企業活動におけるｿﾌﾄｳｪｱの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける。
【思考力、判断力、表現力等】
企業活動におけるｿﾌﾄｳｪｱの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身につける。
【学びに向かう力、人間性等】
企業活動を改善する力の向上をめざして自ら学び、企業活動におけるｿﾌﾄｳｪｱの活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	実務と関連付けて、ビジネスのさまざまな場面で役に立つｿﾌﾄｳｪｱの効果的な活用に関する知識と技術を身につけている。	ｿﾌﾄｳｪｱの活用をはじめとしたさまざまな知識、技術などを活用して、企業活動におけるｿﾌﾄｳｪｱの活用に関する課題を発見しようとしている。また、ｿﾌﾄｳｪｱの活用が企業活動に及ぼす影響を踏まえ、ｿﾌﾄｳｪｱに関する技術などによってこれらの課題を解決するための最適な解を導き出し、よりよく解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自らｿﾌﾄｳｪｱの活用について学ぶ態度を身につけている。また、組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と積極的に関わりながら、企業活動におけるｿﾌﾄｳｪｱの活用に責任をもって取り組む態度を身につけている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価基準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	第１章　表計算ｿﾌﾄｳｪｱの活用 第１節「情報の集計」 ①グループ集計 ②クロス集計	ﾃﾞｰﾀを使用目的に合わせてグループごとに集計したり、項目ごとに集計したりするための方法について学習する。	a:グループ集計について理解しているとともに、表計算ｿﾌﾄｳｪｱでグループ集計をするための技術を習得している。 クロス集計について理解しているとともに、表計算ｿﾌﾄｳｪｱでクロス集計をするための技術を習得している。 b: 情報の集計に関する知識・技術を活用し、表計算ｿﾌﾄｳｪｱによって課題を解決しようとしている。 c: 表計算ｿﾌﾄｳｪｱによる情報の分析によって課題を解決することに、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト	小テスト 観察
	第２節「情報の分析 ①Ｚグラフ ②パレート図とABC 分析 ③フローチャート	ﾃﾞｰﾀを集計した結果を加工して、傾向をつかむための分析や、効率よく商品管理をするための分析をする方法について学習する。	a: Ｚグラフについて理解しているとともに、表計算ｿﾌﾄｳｪｱでＺグラフを作成するための技術を習得している。 ABC 分析について理解しているとともに、表計算ｿﾌﾄｳｪｱで ABC 分析をするための技術を習得している。 ﾌｧﾝﾁｬｰﾄについて理解しているとともに、表計算ｿﾌﾄｳｪｱでﾌｧﾝﾁｬｰﾄを作成するための技術を習得している。 b:情報の分析に関する知識・技術を活用し、とともに、表計算ｿﾌﾄｳｪｱによって課題を解決しようとしている。 c:表計算ｿﾌﾄｳｪｱによる情報の分析によって課題を解決することに主体的かつ協働的に取り組んでいる。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト	小テスト 観察
	第３節「ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ」 ①連続的に変化するﾃﾞｰﾀを予測 ②乱数を使った確率的な予測 ③標本を用いた母集団の傾向の推測	モデルをつくり、条件を変えたり乱数を使用したりして、コンピュータで模擬的に試行（ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ）して予測をするための方法について学習する。	a:様々なｼﾐｭﾚｰｼｮﾝの形態について理解しているとともに、表計算ｿﾌﾄｳｪｱでｼﾐｭﾚｰｼｮﾝを行うための技術を習得している。 標本を用いた統計の基礎について理解している。 b: ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝに関する知識・技術を活用し、表計算ｿﾌﾄｳｪｱによって課題を解決しようとしている。 c:表計算ｿﾌﾄｳｪｱによりｼﾐｭﾚｰｼｮﾝによって課題を解決することに、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト	小テスト 観察

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価基準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	第４節「オペレーションズリサーチ」 ①在庫管理 ②回帰分析 ③線形計画法 ④待ち行列 ⑤日程管理 ⑥ゲーム理論	集計、分析したﾃﾞｰﾀを活用し手経営に関する問題を発見し、解決策を見つける手法について学習する。	a:在庫管理・回帰分析について理解しているとともに、表計算ｿﾌﾄｳｪｱで在庫管理・回帰分析を行うための技術を習得している。線形計画法について理解しているとともに、表計算ｿﾌﾄｳｪｱのｿﾙﾊﾞｰ機能で解を求めるための技術を習得している。待ち行列について理解しているとともに、表計算ｿﾌﾄｳｪｱで待ち行列ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝを行うための技術を習得している。ﾊﾟｰﾄ図やｶﾞﾝﾁｬｰﾄによる工程管理を行うための方法を理解している。 ｹﾞｰﾑ理論の基礎について理解している。 b:ｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝｽﾞﾘｻｰﾁに関する知識・技術を活用し、表計算ｿﾌﾄｳｪｱによって課題を解決しようとしている。 c:ｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝｽﾞﾘｻｰﾁについて学習し、表計算ｿﾌﾄｳｪｱによりｼﾐｭﾚｰｼｮﾝによって課題を解決することに、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト	小テスト 観察
	第５節「手続きの自動化」 ①マクロの基礎	効率のよい処理を行うため、繰り返して実行する操作などを自動化するマクロを作成する方法について学習する。	a:表計算ｿﾌﾄｳｪｱにおけるマクロ機能（記録ﾏｸﾛ）に関する知識・技術を身につけている。 b: 表計算ｿﾌﾄｳｪｱにおけるﾏｸﾛ機能によって効率的な処理を行うための方法を考えようとしている。 c:表計算ｿﾌﾄｳｪｱにおけるﾏｸﾛ機能に関する学習に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト	小テスト 観察
	第２章　ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽｿﾌﾄｳｪｱの活用 第１節「ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの概要と特徴」 ②ﾃﾞｰﾀの整合性を保つ技術 ③障害対策	ビジネス活動において、情報の収集・整理や管理に利用されているﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの概要や重要性について学習する。 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽのﾃﾞｰﾀを守るためのしくみについて学習する。	a:ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの概要について理解している。ﾃﾞｰﾀの整合性を保つ技術について理解している。ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの障害対策について理解している。 b:ﾋﾞｼﾞﾈｽにおけるﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの重要性について考えようとしている。 どのようにすれば複数人がﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽを共有することができるか、考えようとしている。 どのようにすればﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの障害を防ぐことができるのか、考えようとしている。 c:ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの重要性に関する学習に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト	小テスト 観察

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価基準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	第２節「ﾘﾚｰｼｮﾅﾙﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの概要と設計」 ①ﾘﾚｰｼｮﾅﾙﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの概要 ②ﾘﾚｰｼｮﾅﾙﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの設計	ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽを設計するために、ﾃﾞｰﾀの正規化とE-Rモデルについて学習する。	a:ﾘﾚｰｼｮﾅﾙﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの特徴について理解している。 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽをもとにﾘﾚｰｼｮﾅﾙﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽを設計する方法について、正規化などを踏まえて理解している。 E-Rモデルについて理解している。 b:ﾃﾞｰﾀをもとにﾘﾚｰｼｮﾅﾙﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの設計する方法について考えようとしている。 c: ﾘﾚｰｼｮﾅﾙﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽに関する学習に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト	小テスト 観察
	第３節「ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの作成と操作 ①ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの構成と要素 ②ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの作成 ③ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの操作 ④レポートの作成 ⑤SQL	商品管理についてのﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽを作成するために必要なﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽｿﾌﾄｳｪｱの操作方法を学習する。また、学習内容を活用して報告書を作成する。	a:ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽｿﾌﾄｳｪｱの基本機能について理解している。 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽｿﾌﾄｳｪｱを使ってﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽを作成するための技術を身につけている。 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽｿﾌﾄｳｪｱを使ってﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽを操作するための技術を身につけている。 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽｿﾌﾄｳｪｱを使ってﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽを出力するための技術を身につけている。 SQLの基本的な構文を理解している。 b: ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽｿﾌﾄｳｪｱ操作方法に関する知識・技術を活用して、課題を解決するためのﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽを作成しようとしている。 c:ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽｿﾌﾄｳｪｱを操作し、効率的なﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽを作成することに、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト	小テスト 観察

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価基準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
2	第３章　情報ｼｽﾃﾑの開発 第１節「表計算ｿﾌﾄｳｪｱによるじょうほうｼｽﾃﾑの開発」 ①表計算ｿﾌﾄｳｪｱのﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ ②表計算ｿﾌﾄｳｪｱのﾕｰｻﾞﾌｫｰﾑ ③表計算ｿﾌﾄｳｪｱによる情報ｼｽﾃﾑの開発	表計算ｿﾌﾄｳｪｱのﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ異能を利用してｼｽﾃﾑ開発をするための方法について学習する。	a: ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞとｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑの概要について理解している。代入と演算・条件判断を行うﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを作るための知識・技術を身につけている。繰り返し処理を行うﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを作るための知識・技術を身につけている。配列を使用するﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを作るための知識・技術を身につけている。ﾜｰｸｼｰﾄを利用するﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを作るための知識・技術を身につけている。二重ﾙｰﾌﾟを利用する行うﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを作るための知識・技術を身につけている。複数のﾜｰｸｼｰﾄを使ったﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを作るための知識・技術を身につけている。ﾕｰｻﾞﾌｫｰﾑを設計するための知識・技術を身につけている。表計算ｿﾌﾄｳｪｱのﾜｰｸｼｰﾄやﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ機能を用いて、予約管理ｼｽﾃﾑのような情報ｼｽﾃﾑを開発するための知識・技術を身につけている。 b:ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑやﾏｸﾛ言語によるﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ、表計算ｿﾌﾄｳｪｱの機能などに関する課題を解決するための方法について考えることができる。 c:ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑやﾏｸﾛ言語によるﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ、表計算ｿﾌﾄｳｪｱの機能に関する学習に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。学習した知識・技術を活用し、表計算ｿﾌﾄｳｪｱによる情報ｼｽﾃﾑを開発することに、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト	小テスト 観察 検定試験
	第２節「ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽｿﾌﾄｳｪｱを利用したｼｽﾃﾑ開発」 ①ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽｿﾌﾄｳｪｱによる情報ｼｽﾃﾑ開発の準備 ②ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽｿﾌﾄｳｪｱを利用したｼｽﾃﾑ開発	手続きの自動化とﾕｰｻﾞﾌｫｰﾑを活用した情報ｼｽﾃﾑの開発を、ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽｿﾌﾄｳｪｱの実習を通して学習する。	a:第２章で学習した、ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽｿﾌﾄｳｪｱの操作に関する知識・技術を、実用的な形で身につけている。ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽｿﾌﾄｳｪｱによって情報ｼｽﾃﾑを開発するための方法や手順に関する知識・技術を身につけている。 b: ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽｿﾌﾄｳｪｱに関する知識・技術を活用し、情報ｼｽﾃﾑを開発しようとしている。 c: 学習した知識・技術を活用し、ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽｿﾌﾄｳｪｱによる情報ｼｽﾃﾑを開発することに、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト	小テスト 観察

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価基準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
2	第４章　業務処理用ｿﾌﾄｳｪｱの活用 第１節「グループウェアの活用」 ①グループウェア ②グループウェアの導入 ③グループウェアの活用	企業活動において、組織内の情報共有やスケジュール管理に利用されるグループウェアについて学習する。	a:ｸﾞﾙｰﾌﾟｳｪｱの特徴について理解している。 掲示板機能やメッセージ機能を用いた連絡の効率化に関する知識・技術を身につけている。 ﾌｧｲﾙ管理機能を用いた情報の共有に関する情報の共有に関する知識・技術を身につけている。 ｽｹｼﾞｭｰﾙ機能を用いた受けジュール管理に関する知識・技術を身につけている。 ToDo ﾘｽﾄ機能やﾀｲﾑｶｰﾄﾞ機能を用いた時間管理に関する知識・技術を身につけている。 申請・承認の電子化に関する知識・技術を身につけている。 b:ｸﾞﾙｰﾌﾟｳｪｱを用いて、@ﾒﾝﾊﾞｰと協力して作業を行う方法を考えようとしている。 ｸﾞﾙｰﾌﾟｳｪｱを用いて、ﾒﾝﾊﾞｰとのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝにおける課題を解決する方法を考えようとしている。 c:ｸﾞﾙｰﾌﾟｳｪｱについて学習し、ﾒﾝﾊﾞｰと効果的にｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを行う方法を考えることに、主体的かつ協桐敵に取り組んでいる。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト	小テスト 観察
	第２節「給与計算ｿﾌﾄｳｪｱの活用」 ①給与計算ｿﾌﾄｳｪｱ ②給与計算ｿﾌﾄｳｪｱの画面構成 ③給与計算ｿﾌﾄｳｪｱの導入と活用	企業活動において、給与や所得税・健康保険料などの計算に利用される給与計算ｿﾌﾄｳｪｱについて学習する。	a: 給与計算ｿﾌﾄｳｪｱの特徴について理解している。 給与計算ｿﾌﾄｳｪｱの導入方法について理解している。 毎月の給与計算処理の基本的な流れについて理解している。 b: 給与計算ｿﾌﾄｳｪｱを用いて効率的に給与計算を行うための方法を考えようとしている。 c: 給与計算ｿﾌﾄｳｪｱについて学習し、効率的に給与計算を行う方法を考えることに、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト	小テスト 観察

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価基準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
3	第３節「仕入・販売管理ｿﾌﾄｳｪｱの活用」 ①仕入・販売管理ｿﾌﾄｳｪｱ ②仕入・販売管理ｿﾌﾄｳｪｱの画面構成 ③仕入・販売管理ｿﾌﾄｳｪｱの導入と活用	仕入･販売･在庫管理などに利用される仕入･販売管理ｿﾌﾄｳｪｱについて学習する。	a: 仕入・販売管理ｿﾌﾄｳｪｱの特徴について理解している。 仕入・販売管理ｿﾌﾄｳｪｱの導入方法について理解している。 日々の取引の入力の基本的な流れについて理解している。 b: 仕入・販売管理ｿﾌﾄｳｪｱを用いて効率的に仕入・販売管理を行うための方法を考えようとしている。 c: 仕入・販売管理ｿﾌﾄｳｪｱについて学習し、効率的に仕入・販売管理を行う方法を考えることに、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト	小テスト 観察
	第５章　情報ｼｽﾃﾑの基礎 第１節「情報通信ネットワークの導入と運用」 ①通信手段の変化 ②ネットワークの導入 ③クラウドコンピューティング ④安定したｼｽﾃﾑの構築	情報通信機器の特徴や、インターネットへの具体的な接続方法について学習する。	a: 通信手段がどのように変化してきたのか、理解している。 ネットワークの導入と運用について理解している。 安定したｼｽﾃﾑを構築するための方法について理解している。 b: 課題を解決するためにﾈｯﾄﾜｰｸを活用するための方法いついて考えようとしている。 c:ﾈｯﾄﾜｰｸの導入･構築･活用に関する学習に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト	小テスト 観察
	第２節「情報資産の保護」 ①情報資産の適切な管理 ②情報セキュリティの３要素 ③情報資産のセキュリティ対策 ④情報セキュリティの脅威と対策	情報資産を保護する重要性や方法について学習する。	a: 情報資産を保護するための情報セキュリティについて理解している。 b:どのようにすれば情報資産を保護することができるのか、考えようとしている。 c: 情報資産の保護に関する学習に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト	小テスト 観察

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度